

学科としての教員養成の目標、計画、教育の質向上の取り組み

工学部 情報工学科（高一種免（情報））

① 教員養成の目標

情報科教員は、現代社会において必須の力となっている情報活用能力の育成を中心的に担う教員として、その役割の重要性は言うまでも無い。本学科のディプロマポリシーにおいて「情報工学の専門分野の知識を身につけ、ソフトウェア開発のための基礎的技術を修得する」「コミュニケーション能力と豊かな人間性を有し、創造性と広い視野を有すること」と掲げているが、これは単なる知識や技能にとどまるものではない。変わり続ける社会や ICT 環境に対し、その実態について分析し、それをもとに我々の在り方について模索し続ける力である。このような力を身につけ、自らがより情報社会を構築する一員であり続けると同時に、後の情報社会を担い創造する人材を育成できる情報科教員を養成する。

② 教員養成の計画

情報科教員として修めなければならない分野は非常に幅広くある。そのため、情報工学で不可欠なソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク及び応用の4分野を体系的に履修し、そこで培われた知識・技能を演習系科目で実践的に活用するカリキュラムとなっている。全体を通し、自らの問題意識を主体的に追求し、企画力・調査力・表現力・発想力・プレゼンテーション能力・技術力を育てるとともに、それらを社会での創造的な活動や成果物に結びつける意欲・態度や協調性を身につけるように編成されている。

③ 教員養成教育の質向上の取り組み

情報科教育法や関連科目を通し、実際の教育現場との協働的な取り組みを取り入れている。初等・中等教育の現場で行われる教育研究活動に教員養成課程の学生が参加し、現実的な課題への対応などについて学ぶ機会を提供している。
